様式2

平成28年2月15日

平成27年度　評価計画及び自己評価

（ 計画 ・中間 ・（最終） ）

広南中学校区　校番　2　学校名　　呉市立広南中学校

a　学校教育目標	<広南学園> 自立に向かって 主体的に生きる 「学び」と「ありがとう」 の日本一を目指して	b　経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 （学校の使命）	大きな夢と志を持ち， 社会に貢献する人材を育成する
			〈ビジョン〉 （将来の学校像）	○深い学びの精神と感謝の気持ち，社会貢献への気概をもつ児童生徒を育て，地域から信頼される学校 ○地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校

c　中期経営目標を踏まえた現状（進捗状況）と今年度の重点	広南中学校（広南学園）としてスタートして4年目を迎える。校訓など学校のもつ伝統と文化・地域性を基盤として，今年度は「**未知の世界へ～知る・つながる・貢献する～**」をキーワードに，「**課題発見・解決**」また「**協働・探究**」の視点からの教育活動全体の改善をすすめ，礼節・挑戦に加え，新しい価値を生み出せる創造性を校風として位置づける教育活動を展開することで，「学びの変革パイロット校」として生徒のコンピテンシーを育むモデル校としての基盤を確立する。

評価計画（中期経営目標を設定してから　1　・　2　・　③　年目）						自己評価					
重点	d 中期（3年間） 経営目標	e 短期（今年度） 経営目標	f　目標達成のための方策 （こんなことをして達成します）	g　指標 （効果を見とる目安）	h 目標値	9　月			2　月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★★ 確かな学力の育成	義務教育9年間を見通した学力を育成する	貫「習得・活用・探究」を手がかりとした授業改善	・広南中授業モデルづくり（研究授業一人一回） ・小学校への乗入授業の拡充	生徒アンケート「生活と学習に関する」3項目の肯定的評価（県平均＋5ポイント）	62%	67%	108%	A	65%	105%	A
		読書活動の充実	・論語写しの継続 ・読書貯金の継続 ・ビブリオトークの導入	生徒アンケート「読書活動」の項目の肯定的評価（県平均＋5ポイント）	60%	61%	101%	A	58%	97%	B
★★ 豊かな心健やかな体の育成	礼節と思いやりを誇り，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する	貫 広南しぐさ・生活習慣の改善指導の徹底	・立腰の指導の徹底 ・生徒会活動の充実による自律的な校風づくり	・教師アンケート「黙想で立腰ができている生徒」の割合 ・生徒アンケート「4項目」に係る肯定的評価	100% 90%	94% 95%	94% 105%	B A	94% 85%	94% 94%	B B
		体力の向上	・体力強化キャンペーンの実施（2回） ・部活動（文化部も）で走力を高める活動内容の充実	・新体力テスト「50m走」・「立ち幅跳び」を呉市平均記録との比較（＋0.2秒，＋10cm）	90%	95%	105%	A	95%	105%	A
		挑戦心の高揚	・「勇気づける声かけ」の実践 ・資格習得「トリプル3」 ・表彰等の活用	・資格検定等に挑戦した生徒の割合 ・生徒アンケート「挑戦意欲」に係る肯定的評価	70% 80%	50% 76%	71% 95%	C B	94% 70%	134% 88%	A B
★ 信頼される学校	地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる	貫 生徒の地域貢献の達成感	・総合的な学習の時間での地域貢献活動PROJECT ・ボランティア活動の充実	・生徒アンケート「地域に貢献した」肯定的評価の割合	90%	92%	102%	A	89%	99%	B
		地域との協働体制の基盤作り	・地域人材の積極的活用（6人） ・地域協働「科学クラブ」創設	・生徒アンケート「地域の方に協力してもらっている」肯定的評価の割合	90%	87%	97%	B	86%	96%	B
		地域発信力の充実	・HP・学校便り・学年だより・保健だより（月1回以上の発信） ・メディア（新聞・TV）で「ひろみなみ」の魅力を伝える（3回）	・保護者アンケート「学校は地域への情報発信に努力している」肯定的評価	100%	98%	98%	B	96%	96%	B

【k：評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

様式3

平成28年2月15日

平成27年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間 ・(最終)）

広南中学校区　校番　2　学校名　呉市立広南中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析 （結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案） （こう改善します（案））
★★★	（貫）義務教育9年間を見通した学力を育成する	(貫)「習得・活用・探究」を手がかりとした授業改善	・数学，理科，音楽の単元初めにおいて，「挑戦問題」に取り組み，「とてもよい」という生徒の肯定的評価は95%以上だった。また，振り返りの実施についても，ほぼすべての教科で実施しており，生徒の肯定的評価も95%と高いことが，影響をしていると考える。 ・小学校への乗り入れについて，声かけを中心としたT2としての役割が定着してきた。また，小学校の授業からの学びを中学校の授業に生かすことができた。（教職員アンケート　肯定的評価　100%）	・授業の最後に5分間の振り返りの時間を確保するようにしたが，授業時間がオーバーしてしまうときもあるので，時間確保のために，ICTやワークシートの活用を積極的に進めていく。 ・T2としての役割をさらに充実させていくために，今年の活動を生かしながら，小学校教員と連携をしていく。
		読書活動の充実	・本を読むことがすき・・・77% ・読んだ本について友達や家族と話をする・・・45% ・家で本や資料などを利用して調べ学習をしている・53% ・読書貯金の充実	・読書については，好意的に取り組んでいる。国語科の授業の中で，読んでいる本についてクラスの中で話をする時間を設ける。（ミニブックトーク） ・読書貯金の形式を，ページ数から冊数とページ数に変更し，集計を行う。3学期は委員会で集計を行い，発表する機会を設ける。
★★	礼節と思いやりを誇り，体力づくりに主体的に取組む生徒を育成する	(貫) 広南しぐさ・生活習慣の改善指導の徹底	・立腰については，「黙想・あいさつ・行事・テスト」などに限定をして取り組みを行うことで，生徒も教員も意識するようになり，姿勢はよくなってきた。 ・生徒アンケート4項目のうち，あいさつの項目のポイントが下がっている。	・さらなるレベルアップを図るため，立腰の姿勢についてできている部分の評価を積極的に行っていく。 ・生徒会執行部が新しくなり，あいさつを課題と考えている役員が多く，委員会を中心に取組を始めている。
		体力の向上	・学年が上がるにつれて，呉市の平均記録を上回る項目が増えてきている。特に第3学年の女子の伸びが顕著である。指標となる「50m走」「立ち幅跳び」については達成度は低い。「長座体前屈」は家庭での5分間ストレッチの効果で記録向上につながった。	・冬季休業中の体力キャンペーン〈腹筋，背筋，腕立て，スクワット）での取組内容を継続していく。 ・保健体育の授業初めに，筋力を高めるトレーニングを取り入れる。 ・部活動の練習の中にダッシュ等の内容を取り入れる。
		挑戦心の高揚	・国語，数学，英語において，のべ58人の生徒が検定試験に挑戦した。担当教員による生徒への声かけが影響していると考える。 ・文化活動発表会や芸術鑑賞ワークショップなどの行事や総合的な学習の時間などの取組において，困難な課題に挑戦し，成果を得たことで生徒自身，自信がついたのではないかと考える。	・教科の授業での検定問題に取り組み，資格取得・検定挑戦の意義を理解させ，実施を周知するとともに，学級担任と連携して進める。 ・様々な取組を生徒会が主体的に進めていくように仕組んでいく。
★	地域に貢献し活力を生み出す学校をつくる	(貫) 生徒の地域貢献の達成感	・地域貢献については前回より2ポイント下がっている。 ・2年生のポイントが大幅に上がった。これはキャリアスタートウィークや起業企画などに，地域の方に積極的に関わっていただいたからである。 ・3年生のポイントが前回に比べ低くなっているのは，広地区クリーン活動などが天候の都合で実施できなかったことが原因であると考える。	・今後も地域を巻き込んだ取組や行事を実施していく。 ・3年生が2学期以降の具体的取組が少ないため，クリーン活動が中止等になった場合の代替措置を検討する。
		地域との協働体制の基盤作り	・総合的な学習の時間や道徳，課外授業等において，地域の総勢100名以上の方々に協力していただき，授業を行うことができ，大きな成果を得ることができたことが達成度の向上につながったと考える。	・生徒にとって，地域の協力していただいていることは当たり前ではないことを伝え，地域や保護者に支えられているという感謝の気持ちを育てていく。
		地域発信力の充実	・各たより（学校，学級，保健，進路など）は，月1回以上発信し，安心ネットからの通信も月に1回以上発信した。また，メディアへは8回〈新聞7回，テレビ1回）紹介された。保護者アンケートでは，96%であったが，保護者自体が安心ネットに加入していなかったり，通信を見ていなかったりすることが影響していると考える。	・広南安心ネット加入の呼びかけと，生徒に学校からの配付物を保護者に渡すように指導を徹底する。

様式４

平成28年2月15日

平成27年度　　学校関係者評価及び改善策

（　中間・(最終)　）

広南中学校区　校番　２　学校名　呉市立広南中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	○小中一貫教育校として，小学校と連携した目標（指標）を掲げている点や生徒実態を的確に把握し，知・徳・体の育成に向けた授業改善や学力の基盤となる読書活動の充実，挑戦心の高揚，地域貢献及び情報発信の充実等，信頼される学校づくりや地域との協働を意識した目標設定，さらに，生徒・保護者アンケートや県学力調査等での客観的な指標設定は適切である。
目標達成のための方策の適切さ	A	○生徒の「主体的な学び」の創造に向けて，各教科の授業研究はもとより，小中一貫教育を意識した多くの合同授業カンファレンスと授業研究，合同研修会の実施，一方で，読書活動の活性化と表現力の向上を兼ねた「ビブリオトーク」の導入等，新たな試みと確実な実施は高く評価できる。 ○挑戦心の高揚に向けて，各種検定の受検や様々な大会への出品，さらに，郷土愛や自己効力感の高揚に向けて，総合的な学習の時間での地域貢献活動や放課後及び長期休業中を利用したボランティア活動の充実等の方策も適切である。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	○各項目において，各種アンケートや学力調査を基にした詳細且つ妥当性・客観性のある分析がなされており，適切である。 ○教科の中で，学習意欲の高揚に向けた「挑戦問題」の設定や次時につなげる「振り返り」の充実等，授業改善の新たな試みや各種検定への意欲的な挑戦，さらに，数多くの地域・外部人材の活用とメディア・HP・学校だよりでの意欲的な情報発信等，大きな成果が出ており，先生方の教育に対する熱意を感じる。
今後の改善策（案）の適切さ	A	○具体的な改善策が考えられ，適切である。特に，生徒の主体性を重視した生徒会の活性化や郷土愛につながる地域・保護者への感謝の心の育成は重要である。今後も，学校の取組や成果と課題及び改善策を，保護者・地域により一層情報発信し，学校に対する協力体制の強化を図ってほしい。
その他	○先生と生徒の信頼関係ができて，良い雰囲気で授業が進められていた。また，どの授業も静かで，生徒全員が集中して学習していた。さらに，全教科で授業の終わりに「振り返りシート」を活用し，授業内容の理解度や疑問点を把握し，授業改善につなげていることは大変良い取組である。 ○ホームページ及び「螺が峯安心ネット」の更新やメール配信，学校・学年・保健だより等による保護者・地域への意欲的な情報発信を高く評価したい。今後も継続を期待している。 ○知・徳・体の育成に向けて，年間100人もの地域や外部の人材活用を行い，それを意欲的に新聞やホームページなどで情報発信していることが素晴らしい。今後も，「協働」を意識した取組をお願いしたい。 ○「地域とつながる」ことでは，「行事等の案内をもって来てくれる時の生徒の態度がとても良い。」や「地域でもよくあいさつをしてくれる。」，「自転車での通学マナーも良い。」といった意見もいただいた。一方，課題としては，「授業中の発表時の返事や声の大きさ」や「（気が緩むのか）私服時の自転車マナーの乱れ」が挙げられた。	

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○全教科で「習得・活用・探究」を常に意識し，習得においては，視覚支援や時間確保も考慮したICTの有効活用等を，思考力・表現力の育成においては，個人思考から，班活動等を利用した集団思考・発表につなげる場の設定を，授業末では，生徒の理解度の把握や次時につなげるための「振り返り」の場の設定等，教材・教具の開発や指導方法・授業展開の工夫改善を図る。また，一方で，授業規律の確立や社会性の育成に向けて，挨拶や返事，立腰，発表の仕方等，教師・生徒の評価方法の工夫による意識の高揚を図りつつ，粘り強い指導を継続する。 ○次年度の「総合的な学習の時間」においては，「主体的な学び」の創造に向けて，次の４点に主眼をおいた年間指導計画を立案することとした。１点目は，「主体的な学び」を育てる3つの体験（【知る】新しい価値に出会い希望を見付ける，【つながる】「人・もの・こと」とつながることで力を手に入れる，【感謝・貢献する】創造，表現，実行して感謝・貢献する）を意識した指導計画の立案，２点目は，主体的に学ぶ意欲を引き出すための「挑戦問題」の設定，３点目は，発展的な活動とリンクした活動，学校の伝統として先輩の取組をベースに継続・発展していける内容であること，４点目は，学習目標やその達成度を生徒と共有することで，より一層の学習意欲と学力の向上を図るルーブリック評価の導入である。 ○自己効力感の育成において，学校行事や小中合同行事の計画・実施はもとより，日々の授業や部活動，さらに学校生活の様々な場面を通して教師の評価やお互いを認め合う学級集団づくりを組織として推進する。また，メディア（新聞やTV）・学校・学年・保健だよりやホームページ及びメール配信を意欲的に行い，学校と家庭・地域が協力して豊かな心の育成を図る。